

# 麻酔科

## 1. 2006 年度の目標および方針

昨今、日夜のごとく新聞マスコミにおいて、医療過誤をめぐる問題が指摘されており、国民の過大な注目を集めている。特に手術における麻酔では、ひとたび医療過誤が起こると、患者の転帰に重大な影響を与えるために、その予防は大きな問題である。

そのため、今年度も我々亀田総合病院の麻酔科としては、

患者に対して常に安全な麻酔管理を提供する。

各科の手術件数の増加に応じることが可能な手術室の体制作り。

術後の痛みを可能な限り取り除いて、快適な術後の回復に寄与する。

より質の高い麻酔管理を行うための臨床研究を行う。次世代の麻酔科医の育成のために、教育に力を注ぐ。

この5つを2006年度の目標として定めて、日常の麻酔業務に取り組む所存である。

## 2. 2005 年度評価

今年度の麻酔科管理の手術件数は、3,451 件であり、前年度の 3,004 件と比較して約 12% の増加であった。しかしながら今年度も麻酔過誤による医療事故は皆無であり、過去 20 年間においても麻酔事故による患者死亡は、ゼロであり、これは誇るべき数字と考えている。体幹部の手術に関しては、ほぼ全例に持続硬膜外麻酔による鎮痛を行い、術後の痛みを効果的に管理した。今年度は、日本麻酔学会を含め、合わせて 5 件の学会発表と講演を行った。

## 3. スタッフ紹介

小林収(1979 年岡山大学卒)

高橋幸雄(1980 年群馬大学卒)

中村京一(1992 年佐賀医大卒)

内海陽子(1998 年岡山大学卒)

大戸浩峰(1998 年東京医歯大卒)

中村正帆(2001 年山形大卒)

谷真規子(2001 年九大卒)

高山寛子(2001 年滋賀医大卒)

いずれも常勤医であり、このうち 4 名は日本麻酔学会において認定された専門医であり、残り 4 名は厚生労働省の認定した麻酔標榜医の資格を得ている。

## 4. 年間活動内容と実績

昨年度の麻酔科依頼の各科の手術件数を示す。

外科	救急	脳外科	心臓外科	整形外科	形成外科	耳鼻科	泌尿器科	産婦人科	口腔外科	その他
1,095	0	184	186	623	109	181	385	537	69	82

年間の麻酔科依頼の手術件数は、昨年比 450 件(12%)増加の 3,451 件であり、そのうち緊急手術件数は、866 件あまりであった。特に K タワーのオープンにより、周産期センターが開設され千葉県のみならず、神奈川や東京からも母体搬送があり、緊急帝王切開術の増加は著しい。

クリニックにおける眼科や外科、整形外科、形成外科の日帰りの手術件数を加えるとその数は、年間 7,000 件を超えている。

今年度も各外科診療科において手術は活発に行われており、その症例は、新生児から超高齢者まで多岐にわたっている。麻酔方法は、全身麻酔を主体として、体幹の手術に関しては硬膜外麻酔を併用している。麻酔に関する説明を患者に対してきちんと行い、医学的に問題がなければ麻酔方法は、患者の希望を最大限尊重して行うことを基本としている。

麻酔科依頼件数は、前年度と比較すると増加しており、その内の高齢者の占める割合は確実に増加しているために、その麻酔管理は年々複雑化して困難なものになっている。

今年度は新しい病棟の建設に伴い、手術室も従来の 10 室から 16 室に増加し、今後の手術件数の増加に設備面では十分対応できるようになった。

当院の中央手術室における手術の特徴としては、総手術件数の 2 割以上が緊急手術であり、当院が地域における救急センターとして機能していることを示している。こうした当院の性格を考慮して、夜間休日を問わず、365 日 24 時間緊急手術が行える体制を整えるために、麻酔科スタッフは平日休日を問わず、拘束体制を引いて、緊急手術に備えている。

#### 【ペインクリニック】

南房総において唯一のペインクリニックを開設しており、帯状疱疹後神経痛のような難治性の疼痛疾患を中心として、神経ブロックを主体とした治療に当たっている。外来は、月曜日から金曜日の週 3 回、午前 10 時から 12 時まで行っている。

## 5 . 教育・勉強会関係など

現在亀田総合病院においては、臨床研修医のプログラムの中に、麻酔科 2-3 ヶ月のトレーニングが必須となっており、常時 4 名の研修医が麻酔科研修を行っている。研修医は、常に麻酔指導医とともに麻酔の研修を行い、経験年数の少ない研修医が 1 人で麻酔業務を行うことは決していない。

3 ヶ月間において、約 100 例の症例の麻酔を経験することによって、救急蘇生において必須である気管内挿管手技や、腰椎穿刺、観血的動脈圧測定と言った手技や、出血性ショック患者や、慢性疾患の急性期管理についての知識を学べるように配慮している。

また現在週 2 回(火・金)の午前 7 時から継続して、抄読会を行い、研修医の教育に当たるとともに、スタッフにおいては現代の麻酔学の成果を臨床に取り入れるための努力を行っている。

初期研修後の麻酔専従医の後期研修プログラムは、麻酔標榜医の資格を取得後に、麻酔指導医の資格を取ることを目標として、外科一般の麻酔管理とともに、心臓外科手術管理、集中治療室管理を行いつつ、ペインクリニックにおける適切な手技の修得を目指している。

そのために必要であれば、院外の適切な指導病院の紹介を行い一年間の院外研修を行うことも可能としている。

## 6 . 学術関係

### 1)原著論文

・日常診療に役立つ血小板・血液凝固線溶と周術期管理 2005.9.25 発行

### 2)学会発表

中村正帆、中村京一：低髄液圧症候群の診断における脳MRIの有用性第52回日本麻酔学会総会 2005年6月2-4日

谷真規子、中村京一：脳動脈瘤破裂によるくも膜下出血患者における神経学的重症度と心電図変化、心機能の関連についての検討第52回日本麻酔学会総会 2005年6月2-4日

谷真規子、高橋幸雄：ITPに対する脾摘術前検査で3枝病変が発見され、一期的にOPCABと脾摘を行った症例の麻酔経験第52回日本麻酔学会総会 2005年6月2-4日

山口 怜、小林 収：術中の気道出血で判明した転移性気管支腫瘍(腎細胞癌)の一症例第45回日本麻酔学会東京関東甲信越地方会 2005年9月24日

### 3)講演

高橋幸雄：外来手術の問題点 第12回群馬 Day surgery 研究会 2005年6月15日

文責：高橋幸雄